



2016-2017 年度 RI テーマ

RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2016-2017 年度 No.15

事務局(新) 〒939-1652 富山県南砺市福光新町 56

TEL 0763-55-6125

FAX 0763-55-6147

h.tonamirc@gmail.com

2016—2017 年度 会長 山本武夫、幹事 得永忠雄



(ジョン F. ジャーム会長)

例会記録(経済と地域発展月間にちなんで)

第 1833 回例会

平成 28 年 10 月 12 日(水) よいとこ井波

1. 開会点鐘：会長
2. ソング：我等の生業
3. ゲスト：北陸財務局富山財務事務所所長 坪田利幸氏



4. 会長の時間：日本の四季としては当然ながら朝晩寒くなってきました。本日のゲストとして北陸財務局富山財務事務所の坪田所長さんにお越しいただきました。卓話よろしくお願ひします。今晚、富山第三分区の 5 RC 以上共同プロジェクトがウイングウイングで行われます。世話方の一人として緊張しており、昨夜から眠れない状態で朝からぼーっとしています。何とか成功させて次年度に継続できるように申し送りしたいと思います。第 1 回となる今回は、高岡市内の保育園にフッ化物洗口が広まるように関係者のみ、お集まり頂きます。今回会員に皆様に依頼はしないことにしています。明日、ア・ミューホールで歯科保健講習会が行われます。今日の話よりもっと深い話しが聞けると思いますので、関心のある方はご参加いただきたい。10 月は地区大会を控えており、また、選挙やいろん

な行事が輻輳していますので忙しくなると思われます。健康に十分気を付けて活躍いただきたい。私事ですが週末に二人の孫の顔を見に大阪に行く予定です。皆様も秋を満喫していただければと思います。



5. 幹事報告：高岡 RC 創立 65 周年記念講演会の案内が来ている。日時：11 月 6 日（日）15:00～16:30、場所：ホテルニューオオタニ高岡 4F に於いて。講演講師は浅田次郎氏、演題は「人生いかに学ぶか」②ロータリー情報委員長会議の開催案内。11 月 17 日（木）12:00～「クロスランドおやべ」にて。③例会変更は、事務局に確認を！
6. 委員会委員会報告：①出席委員会(横山幹委員長)：21 名中 16 名出席 (76.19%) ②親睦活動委員会(宮窪委員長)：秋の家族旅行のご案内。11 月 2 日（水）9:00 井波交通広場出発し、「板屋兵四朗と銭屋五兵衛を結ぶ金屋石」めぐり。昼食を「小原寿し」でいただき、13:30 に帰町予定③坂井地区大会懇親会実行委員長：昨日の時点で 10 月 22 日の晚餐会参加は 144 名で、23 日の大懇親会は 612 名前後の参加予定であります。④会長：北陸財務局から、例年通り、各種卓話

を承りますという案内が来ております。どなたか卓話ゲストをお探しの方は如何でしょうか。

7. ニコニコBOX(SAA: 本日 6名)

山本武夫会長: 坪田利幸様ようこそ、卓話よろしくお願ひします。本日と明日、高岡と福野講演会!

得永幹事: 早退失礼します。

河合会員: 経済と地域発展月間はロータリアンの日々の心がけで成り立ちます。

中島会員: 坪田様ようこそ、卓話よろしくお願ひします。齋藤彰さん新米に感謝!

宮窪会員: 秋の家族旅行を企画、参加待っています。

太田会員: 2週続けて欠席すみませんでした。



卓話「経済と地域発展月間にちなんで。」

北陸財務局富山財務事務所所長 坪田利幸氏

河合会員(紹介者): 本日は経済と地域発展月間にちなんでということでしたが、先週、会長が卓話でふさわしい方の紹介があり、ゲストをご招待いたしました。

坪田氏: 北陸新幹線開業2年目!!「北陸地域の現状と課題について」の話をさせていただきます。

南砺市には何度か訪問していますが、講演という形は今回が初めてであります。まず、北陸財務局の仕事ですが、一つは、地域経済の調査であり、二つには、金融機関の監督であります。本日は、①北陸地域の現状と課題、②北陸経済の現状(北陸新幹線開業後の状況)の2点について、お話ししたい。1. まず人口減少問題ですが、よく言われる出生数の推移。年次推移について、第一次ベビーブーム、第二次ベビーブーム以降どんどん減少している。合計特殊出生率は、人口置換水準の2.07を下回る状況が続いている。北陸地域の人口減少は、全国に比較して10年早く進んでいる。高齢化率も2040年には、40%近い水準になると推計されている。人口減少問題には、自然増減と社会増減がある。社会動態(転入-転出)は、減少が縮小しており、富山県が増加に転じている。一方、自然動態では(出

生-死亡)、減少が拡大している。富山県はどんどん減少し、子供が少なくなっている。新幹線開業によるストロー現象が心配されていたが、現在のところ起きていない。

各自治体の人口減少の要因をみても衛星都市的な舟橋村、川北町、鯖江市が増加している。少子高齢化、人口減少による影響は次のとおり。①内需の縮小②経済成長の低下③財政収支の悪化④地方への悪影響。国は地方創生の総合戦略(まち・ひと・しごと創生)を2年前に策定している。北陸版総合戦略には、若者が活躍できる安定した雇用を創出する。賑わいを創出し、新しい「ひと」の流れをつくる。等の戦略が掲げられている。

北陸新幹線の開業効果(開業1年目の総括)

北陸デスティネーションキャンペーンの効果が出て観光客が増えている。延べ宿泊者数の増加率を見ても北陸が他のエリアより圧倒的に多い。増加率の寄与度をみても北陸エリアは日本人の割合が突出しており、外国人の伸びしろに今後大きく期待ができる。企業に与えた影響では、プラスと答えた企業が5割、マイナスと答えた企業も5割である。業種によって大きく異なることがわかる。プラスと答えたのは、飲食・宿泊業、旅行・観光業が上位を占めている。主要観光地の入込客数を見ても、輪島朝市、福井恐竜博物館等新幹線駅から遠く離れた所にまで波及している。企業進出面からは、本社機能の移転・拡充が平成28年3月までに15件と開業効果が表れている。

一方、変化と課題面では、強まる人手不足感が顕著である。特にサービス業、販売関係の有効求人倍率が大きく伸びており、業種間のシフトが進んできているようである。人手不足に対応するため、設備改修や賃金引上げなど業種によっては危機感が増している現状である。

まとめとして、1. 北陸新幹線の開業効果としては、①新幹線沿線のみならず周辺の観光地にも波及している。②接客等のサービス業や販売業等を中心に求人が増加している。③企業誘致の機運の上昇、などである。2. 変化と課題では、①人手不足対策②伸び悩む固定客対策③2次交通網の整備④広域・周遊観光の推進などである。3. 開業2年目の状況からは、更なる効果に向けてインバウンドに期待するとともに、人手不足などの課題解消に向けての取り組みが進展することを期待したい

(会報担当) 長田・長谷川(写真)・山本武夫